

平成 25 年度学術情報委員会活動報告

I. 会議等の開催状況

第 1 回学術情報委員会（平成 25 年 8 月 9 日 於：京都大学附属図書館）

1. 委員会の任務について（確認）
2. 今年度の活動方針について（協議）
3. 学術情報流通改革シンポジウムの開催について（協議）
4. 相互利用に向けた電子ジャーナル購読タイトル情報の共有について（協議）
5. 国立情報学研究所「オープンアクセスジャーナルへの投稿に関する調査の実施」への協力について（報告）
6. 平成 25 年度の委員会開催予定について（協議）

第 2 回学術情報委員会（平成 25 年 10 月 24 日 於：北海道大学附属図書館）

1. 平成 25 年度学術情報委員会活動経過報告について（協議）
2. 各小委員会・プロジェクトチームの活動状況について（協議）
3. 平成 25 年度国立大学図書館協会 学術情報流通改革シンポジウムの開催について（協議）
4. その他
 - (1) 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)宛て「国内電子書籍に関する検討について（依頼）」国公立大学図書館協力委員会常任幹事会 平成 25 年 8 月 29 日（報告）
 - (2) 海外からの電子的コンテンツ配信への消費税、関税の課税について（協議）

第 3 回学術情報委員会（平成 26 年 3 月 11 日 於：京都大学附属図書館）

1. 平成 25 年度の小委員会、プロジェクトチームの活動報告及び提案について（協議）
 - (1) 学術情報流通検討小委員会
 - (2) GIF プロジェクトチーム
 - (3) 学術資源の利用促進と保存プロジェクトチーム
2. 学術情報流通改革シンポジウム（第 6 回）の開催状況について（報告）
3. 当委員会の今後の活動課題について（協議）

第 4 回学術情報委員会（平成 26 年 5 月 14 日 於：東京大学）

1. 各小委員会・プロジェクトチームの活動について（協議）
2. 理事会への委員会活動報告について（協議）
3. 学術情報委員会の今後の活動課題について（協議）
4. その他

Ⅱ. 活動内容

1. 平成 25 年度の活動方針

電子的環境における学術情報の収集、流通、保存・提供、国際連携に係る諸課題に取り組むこととなった。

2. 平成 25 年度の活動について

平成 25 年度は、以下の 3 点を中心に取り組んだ。

1) オープンアクセス等の学術情報流通と図書館の役割に関する調査研究

オープンアクセス、特にオープンアクセスジャーナルの状況について調査するため、学術情報流通検討小委員会を設置した。

近年のオープンアクセスジャーナルの状況を購読方式のジャーナルと対比しつつ、実態調査を行い、今後、大学図書館として、購読方式ジャーナルやオープンアクセスジャーナル等の学術情報流通について、取り組む課題を整理し、提案した。調査結果についての報告書を「オープンアクセスジャーナルと学術論文刊行の現状－論文データベースによる調査－」として取りまとめた。

また、大手商業出版社における購読方式、およびオープンアクセス方式によるジャーナルの今後の展開について、中期的な見通しを得ることを目的に、学術情報流通改革シンポジウム「学術情報流通の改革を目指して6－大手出版社の電子ジャーナル戦略－」を開催した。

2) GIF プロジェクトの将来に関する検討と現行システム運用支援体制の整備

平成 24 年度に取りまとめた「GIF プロジェクト総括レポート」を踏まえ、GIF プロジェクトの在り方の全般的見直しを行うため、GIF プロジェクトチームおよび、GIF プロジェクト再検討ワーキング・グループを設置した。

現在までの GIF プロジェクトの評価、および ISO ILL プロトコル更新への対応についての検討を行い、検討の結果を「今後の GIF プロジェクトの在り方について（検討結果報告書）」として取りまとめた。

3) 学術情報の利用と保存に関する検討

学術情報の利用と保存についての検討に関して、学術資源の利用促進と保存プロジェクトチームを設置した。

電子情報資源のみならず伝統的な紙媒体資料の保存についても保存原則に遡って検討する必要性から、今年度は特にシェアード・プリントについて重点的に取り組み、検討の結果を報告書「学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム報告」として取りまとめた。

3. 学術情報流通検討小委員会の活動について

1) 会議開催状況

第1回	平成25年 9月13日	於：京都大学附属図書館
第2回	平成25年10月18日	於：京都大学附属図書館
第3回	平成25年12月 3日	於：京都大学附属図書館
第4回	平成26年 1月29日	於：東京大学総合図書館

2) 活動状況

(1) オープンアクセスジャーナルの調査

今年度は、オープンアクセスジャーナルについて調査を行った。

日本の大学・研究所等からのオープンアクセスジャーナルへの近年における論文投稿状況の遷移、また国別の論文投稿状況等について、購読方式の電子ジャーナルと対比しつつ、Web of Science の掲載データを活用した実態調査をし、調査の結果を、平成25年度調査報告「オープンアクセスジャーナルと学術論文刊行の現状－論文データベースによる調査－」として取りまとめた。

報告書では、オープンアクセスジャーナルのタイトル数、APC 金額等の現状、購読方式、オープンアクセスジャーナルともに年々論文投稿数が増加する状況を整理した。また今後、大学図書館として、購読方式ジャーナルやオープンアクセスジャーナル等の学術情報流通について、取り組む課題を整理し、提案した。

(2) 学術情報流通改革シンポジウムの実施

学術情報流通改革検討特別委員会が企画実施してきたシンポジウム「学術情報流通の改革を目指して」を継承し、今年度は「大手出版社の電子ジャーナル戦略」として、電子ジャーナルを多角的に展開している大手商業出版社における購読型ジャーナルおよびオープンアクセスジャーナルの今後の展開、方針および考え方の中期的な見通しを得ることを目的に開催した。

シンポジウムには、国立大学図書館協会会員館の館長から係員まで、113名の参加があり、参加者へのアンケート（回収率 74%）では、「とても良かった」「良かった」を合わせ、67%の方から良好な評価を得た。

日時：平成26年1月28日（火） 13時～17時30分

場所：東京大学大学院理学系研究科・理学部 小柴ホール

プログラム：

①概況説明「電子ジャーナル流通モデルの動向と課題」

講師：国立情報学研究所 学術基盤推進部 図書館連携・協力室長、大学図書館
コンソーシアム連合(JUSTICE)事務局長 熊渕 智行 氏

②出版各社による説明と質疑応答

Elsevier 社

Springer 社

Wiley 社

4. GIF プロジェクトチームの活動について

1) 会議開催状況

(1) 第1回 GIF プロジェクトチーム会合（平成25年10月8日開催）

- ① 課題と役割分担について
- ② NCC との懸案事項について
- ③ その他

(2) GIF プロジェクト再検討ワーキング・グループ第1回会合（平成25年9月20日開催）

- ① 再検討の進め方について
- ② その他

(3) GIF プロジェクト再検討ワーキング・グループ第2回会合（平成25年10月11日開催）

- ① GIF プロジェクト再検討の今後の進め方について
- ② その他

(3) GIF プロジェクト再検討ワーキング・グループ第3回会合（平成26年1月27日開催）

- ① 検討結果報告書（案）について
- ② ロードマップについて
- ③ その他

2) 活動状況

日米 ILL/DD および日韓 ILL/DD プロジェクトについて

別紙「日米 ILL/DD および日韓 ILL/DD プロジェクト状況報告」を参照。

3) 課題等の検討状況

GIF プロジェクト再検討ワーキング・グループにおいて、現在までの本プロジェクトの

評価、ISO ILL プロトコル更新問題への対応、改善点の検討等を行った。また 11 月には、検討の参考資料とするため、本プロジェクト全参加機関を対象としたアンケート調査を行った。

以上を踏まえ、国公私立大学図書館協力委員会 GIF プロジェクトチームと連名で「今後の GIF プロジェクトの在り方について（検討結果報告書）」をとりまとめた。

5. 学術資源の利用促進と保存プロジェクトチームの活動について

科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会が 2013 年 8 月に公表した「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」においても言及されているシェアード・プリントについて、欧米の現状と日本で実施する際の留意点を報告書「学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム報告」にとりまとめた。

また、2014 年 2 月 20 日開催の国立大学図書館協会関東甲信越地区協会セミナー及び 2 月 28 日開催の KEIO 大学図書館国際フォーラム「大学図書館における冊子体コレクションの将来～日本版 Shared Print の可能性～」で調査結果の一部を報告した。

Ⅲ. 委員構成

1. 学術情報委員会

引原 隆士	京都大学図書館機構長（委員長）
新田 孝彦	北海道大学附属図書館長
結城 憲司	室蘭工業大学図書・学術情報事務室ユニットマネジャー
加藤 信哉	筑波大学附属図書館副館長
竹内 比呂也	千葉大学附属図書館長
関川 雅彦	東京大学附属図書館事務部長
加徳 健三	一橋大学学術・図書部長（～平成 26 年 3 月 31 日）
上原 正隆	一橋大学学術・図書部長（平成 26 年 4 月 1 日～）
山口 芳雄	新潟大学学術情報基盤機構附属図書館長（～平成 26 年 3 月 31 日）
鈴木 光太郎	新潟大学学術情報基盤機構附属図書館長（平成 26 年 4 月 1 日～）
酒井 清彦	名古屋大学附属図書館事務部長
磯谷 峰夫	三重大学学術情報部情報・図書館課長（～平成 26 年 3 月 31 日）
高野 恵子	三重大学学術情報部情報・図書館課長（平成 26 年 4 月 1 日～）
栃谷 泰文	京都大学附属図書館事務部長（～平成 26 年 3 月 31 日）
甲斐 重武	京都大学附属図書館事務部長（平成 26 年 4 月 1 日～）
吉田 素文	九州大学附属図書館副館長
竹内 雅雄	北陸先端科学技術大学院大学副理事（研究機構担当）（兼務） 研究推進課長

相原 雪乃 (事務)	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長
加藤 晃一	京都大学附属図書館情報管理課長 (～平成 26 年 3 月 31 日)
大西 直樹	京都大学附属図書館副事務部長 (平成 26 年 4 月 1 日～)
井上 敏宏	京都大学附属図書館情報管理課長補佐 (～平成 26 年 3 月 31 日) 京都大学附属図書館総務課長補佐 (平成 26 年 4 月 1 日～)

2. 学術情報流通検討小委員会 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

栃谷 泰文	京都大学附属図書館事務部長 (委員長)
金藤 伴成	東京大学附属図書館情報サービス課相互利用係長
磯谷 峰夫	三重大学学術情報部情報・図書館課長
井上 敏宏	京都大学附属図書館情報管理課課長補佐
森石 みどり	大阪大学附属図書館利用支援課フロアサービス班専門職員
篠栗 伸一	神戸大学附属図書館情報管理課課長補佐

3. GIF プロジェクトチーム

加徳 健三	一橋大学学術・図書部長 (主査) (～平成 26 年 3 月 31 日)
上原 正隆	一橋大学学術・図書部長 (主査) (平成 26 年 4 月 1 日～)
小林 泰名	北海道大学附属図書館利用支援課係長 (相互利用担当)
細川 聖二	筑波大学附属図書館情報サービス課長
鈴木 秀樹	新潟大学学術情報部学術情報管理課長 (平成 26 年 4 月 1 日～)
中谷 実邦子	東京大学地震研究所庶務チーム (図書) 係長
上村 順一	東京海洋大学附属図書館情報サービス係長
山口 友里子	一橋大学学術・図書部学術サービス課レファレンス係 (～平成 26 年 3 月 31 日) 一橋大学学術・図書部学術情報課レファレンス係 (平成 26 年 4 月 1 日～)
原竹 留美	京都大学附属図書館情報サービス課相互利用掛長

(GIF プロジェクト再検討ワーキング・グループ) (平成 26 年 3 月 31 日現在)

加徳 健三	一橋大学学術・図書部長 (主査)
井上 修	東北大学附属図書館事務部長
細川 聖二	筑波大学附属図書館情報サービス課長
関川 雅彦	東京大学附属図書館事務部長
栃谷 泰文	京都大学附属図書館事務部長

相原 雪乃 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長

4. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム

加藤 信哉 筑波大学附属図書館副館長（主査）

竹内 比呂也 千葉大学附属図書館長

関川 雅彦 東京大学附属図書館事務部長

日米 ILL/DD および日韓 ILL/DD プロジェクト状況報告

1. 日米 ILL/DD プロジェクト

1) 「文献複写サービス」参加状況

参加機関数は、平成 26 年 3 月 31 日現在、日本側 166、米国側 106 であり、平成 25 年 4 月以降、日本側で 5 館、米国側で 15 館増加の状況である。

2) 「現物貸借サービス」参加状況

参加機関数は、上記同日現在、日本側 92、北米側 78 であり、平成 25 年 4 月以降、日本側で 3 館、北米側は 10 館増加の状況である。

3) 日米 ILL/DD 実施状況

平成 25 年度の日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。前年に比べ、依頼件数で 386 件減、受付件数で 361 件増となっている。日本側受付分の謝絶率は 71.3%である。(71.8%(20 年度)→67.8% (21 年度) →67.5% (22 年度) →63.3% (23 年度) →69.0%(24 年度))。一方、日本側依頼分の謝絶率は 43.7%である。(44.6%(20 年度)→49.0% (21 年度) →45.6% (22 年度) →37.5% (23 年度) →38.4%(24 年度))

表 1 日米 ILL/DD 実施状況 (平成 25 年度)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	703	466	0	1,169	320	531	0	851
現物貸借	217	249	0	466	218	807	0	1,025
合計	920	715	0	1,635	538	1,338	0	1,876

2. 日韓 ILL/DD プロジェクト

1) 参加状況

参加機関数は、平成 26 年 3 月 31 日現在、日本側 121、韓国側 317 館となっている。平成 25 年 4 月以降、日本側では 5 館増加、韓国側で 13 館の増加である。

2) 日韓 ILL/DD 実施状況

平成 25 年度の実施状況は、表 2 のとおりである。前年に比べ、依頼件数は 50 件減、受付件数は 486 件増である。謝絶率は依頼分が 23.5%で昨年度 (22.8%) とほぼ同様である。受付分においては 38.1%で昨年度 (36.7%) に比べやや高い数値となっている。依然として、日本側受付件数が依頼件数を大きく上回る状況が続いている。

表 2 日韓 ILL/DD 実施状況 (平成 25 年度)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	39	12	0	51	2,668	1,645	0	4,313